

## タウンミーティング（大保木地区） 開催報告

- 日 時 令和元年 11 月 9 日（土） 午後 1 時 30 分から
- 場 所 石鎚ふれあいの里 研修室
- 参加者 大保木地区連合自治会長、兎之山自治会長、中奥自治会長、浦山自治会長、  
地域代表 3 名、西条自然学校理事長  
市長、経営戦略部長、農林水産部長、林業振興課長、  
シティプロモーション推進課長、広聴係長
- 傍聴者 8 人
- 次第
  - 1 開会
  - 2 挨拶（大保木地区連合自治会長）
  - 3 挨拶（市長）
  - 4 前回からの報告
  - 5 市の主要事業について《市提案》
    - (1) 市長説明(市長)
  - 6 参加者自己紹介
  - 7 地域課題「大保木の山の管理」について《地域提案》
    - (1) 地域からの提案説明（大保木地区連合自治会長）
    - (2) 意見交換
  - 8 その他
  - 9 まとめ・閉会
    - (1) まとめ（市長）
    - (2) 挨拶(大保木地区連合自治会長)

### ○会議録

#### 1 挨拶

##### 【大保木地区連合自治会長】

皆さんこんにちは。お忙しい中お集まりいただき感謝する。

大保木地区は現在 43 世帯、兎之山を入れて 100 世帯くらいで、人口が 170 人名ほどである。先般の大保木ふれあい運動会は、県や市に応援していただき、企業の応援団 80 名に来ていただき開催できた。新たな星である、若い二人という明るい話もある。

一方で林業は、外材の侵入から戦後どんどん衰退しているが、この山村が活性化するにはまず林業が仕事として成り立つ基盤がないとだめだと思う。

これからの担い手がいるのかと思ったとき、国土調査が未だこの地域には入っておらず、山の境界さえも分からない状態である。氷見までは昨年入っていると聞いており、丹原・小松地域の山間部は終わっているという話も聞いているが、大保木地域ではできておらず残念である。

今日は、将来に向けて少し重い話になると思うが、国土調査をもっと推進していただいて、林業の明日がみえるきっかけになればということでテーマを「大保木地区の山林の管理について」とさせていただいた。どうぞ皆さん、傍聴者含めて自分達に何ができるかを考えていただきながら議論をしていきたい。

##### 【市長】

皆様こんにちは。今日は大保木地区の皆様にお会いしタウンミーティングができることをありがたく、うれしく思う。

3 月にもさせていただいたが、タウンミーティングをただで終わってしまっただけでは何にもならないので、その後、皆様の生活に何か変化や良かったことがなくてはならない。今年度のタウンミーティングは、次年度の予算に反映すべきは反映しようという思いもあり、28 地区をこの 11 月末で全部回ることになっている。

それぞれ地域が抱える課題は、例えば大保木と海に近い西条校区とは当然違う。高齢化が進んでいる山間地域で、私たち行政も少し変化を加えていかなければ、自治コミュニティが成り立っていかないと、タウンミーティングの中でも感じている。加茂地区や丹原の桜樹地区も同じような状況で、人口減少、高齢

化の中で、役が固定化して本当にしんどいという声を聞いた。自治のコミュニティの在り方も街中の校区と同じスタイルではなく、組み替えていこうということで、加茂地区ではコミュニティをこれからどのように行政と一緒に守っていくかの話をするようになった。

色々話を聞く中で、大保木はどちらかという、外から来た人を歓迎して受け入れられる地域だと思う。山間部の中でも体質が違い、それぞれ地域に合ったコミュニティの在り方、地域課題の解決の方法があると思うので、今日は、こうした所をうかがいながらこれからの行政運営を考え、皆様の思いに答えられるように取り組んでまいりたいので、忌憚のない意見をいただけたらと思う。限られた時間ではあるがよろしく願います。

## 2 前回からの報告

(参照別紙資料 (1) )

## 3 市の主要事業について《市提案》

### (1) 主要事業の説明

#### 【市長】

人口減少は、大保木だけでなく西条全域の問題で、今から 26 年後には約 28%、旧東予の人口とほぼ同じ約 32,000 人が減ってしまう予想である。そこで何が起こるかという、市税収入が減る、人口割合により、国からの交付税措置がなくなってくる。

では、次代を担う子ども達が増えればという話になるが、西条市に十分な数の産婦人科があるかという話から始まり色々な課題があるため、なかなか人口増が難しい。そこで、社会増を目指していこうということで移住推進に力を入れており、昨年度に比べて 289 人の方が移住という選択をしてくれた。東京・大阪など大都市圏で頑張ってきた皆様は「こういったところで暮らしたい。」と思う方が非常に多い。

皆様をお願いしたいのが、空き家バンクへの登録である。この制度は、西条市に空き家を登録していただき、空き家利用希望者に西条市が情報提供するもので、所有者と希望者の媒介等は宅建協会が行うが、西条市がかかわることで、安心して空き家を使っていたい。

実は、移住をする人はむしろ古民家に住みたいと思っており、畑仕事もしていきたいので、農地があればなお良いということで、丹原が人気である。「限界からの挑戦」でチャレンジしている大保木にも空き家があると思うので、貸してもいいという家があれば、空き家バンクにご登録いただけるとありがたい。

今年の 5 月と 9 月に西条市の人口が社会増になり、データ分析すると外国人の増加だった。福祉の分野では外国人が入ってきてくれており、共生をしていかなければならない。グローバルな社会での共存が必要になってきている。

先般、三重県鈴鹿市の市長と話したが、鈴鹿市には 57 か国の人が入り乱れ、20 万弱の都市で共生をしている。このように時代は移り変わってきているが、一方で日本人の心も大切に守ってなくてはならないと思う。

大保木は、四阪島にいたころの風景と被ることもあり、大好きで大切な古里だと思っており、皆様のチャレンジになんとか応えたい。多くの若い者が入ってきて受け入れられる土壌がないとチャレンジできないと思う。環境づくりをしっかりとやっていきたいと思う。

断ることは簡単だが、住民の皆様のご要望にどうしたら応えることができるかを考えていこうと職員には言っている。これはどうかということがあったら、遠慮なしに言っていただいて、何とか知恵を絞りながらより良い方向へもっていきたい。ただその中でも、優先順位は決めないといけない。平成 16 年 11 月の合併はなくてはならなかったと思うが、2 市 2 町の良い方、安い方に合わせたことで、西条市の財政状況に負担をかけている。

これから市税収入が減っていく中で、扶助費が増え、公共施設の老朽化が進むという課題がある中、子どもたち、孫たちにしっかりバトンを渡せる西条にするために、どういう工夫をしたら西条が守れて行くのか考えていかなければいけない。

今日のテーマの山については、伊藤宏太郎氏に「山を大事にしないとイケない。山があつて海があつて丘がある。山を大切にしてくれ。」と教えられた。海の幸、丘にも山の影響がある。なかなか生産性が見えにくいところであるが、無視はできない課題である。大保木の皆様から声をいただきながら山を大切にしていけることが、丘の繁栄につながると信じてやっていきたい。小さなことから積み上げていくことになるが、今日は、そういう時間にしたい。

#### 4 地域課題「大保木の山の管理」について

##### (1) 地域からの提案説明

###### 【大保木地区自治会長】

一口に山といっても住民の考え方は違うが、私が子どもの時の山を思い起こすと、寺や大保木小学校から下を眺めると川が見えていたくらい田畑を整備していた。40、50年前と今では、ダムができるなど凄い変わりようで、山の風景そのものはあまり変わらないが、川が見えていた風景は畑に植えたスギ・ヒノキで暗くなって、見えなくなってしまった。その上、そのスギやヒノキは人々のためになっていない。森林をよくする林業は応援するが、森林をダメにする林業はさっさと退場して欲しい。林業が健全に行われないと森林そして日本社会も良くならない。

ここ40年から50年で、山の木材が必要とされる場面が激減した。大きいことを言うが、石鎚山のとっぺんから瀬戸内海に至るまで、西条のほとんどを占めている森林が、空気や水、様々な栄養、そして、人が生きるための手立てをもたらすものでなければ、西条に将来はない。日本の国土の状況からいっても森林がほとんどである中で、これからどうしていくか。持ち主が分からなくなっている状況をきちんとしないといけない。森林環境税が出来たが、このお金も有効利用していただきたい。

直近の問題も含めながら将来、子や孫がこの地域で生きていくためにはどうするべきかという命題をテーマに掲げさせていただいたが、我々に何ができるか、行政に何ができるか考えていきたい。

間伐、全伐など含めすばらしい花も実もあるような山にしていくにはどうするか、例えば行政にはコーディネーター役になってもらい、アサヒさんとかココ・コーラさんとか、寺や神社も、森林組合も当然入っていただき、産業として林業が成り立つように取組む協議会のようなものができないかという思いもある。今日は様々な問題が出ると思うが、それぞれ何ができるかを考えながらご審議・ご協議していただきたい。

##### (2) 意見交換

###### 【参加者】

松山市と水についての話が色々あったが、西条市として水源を守っていると堂々と言えることがあるか。

###### 【市長】

水源の森ということでかん養を良くしていこうと、川の兩岸を間伐しており、これは他の愛媛県下ではやっていない取組みである。また、精神的なものは、うちぬき21プロジェクトが取り組んでくださっている。

これから、水を守るために条例を制定していく。水が使えるのが当たり前になっているが、押し出す力が弱ってきているので塩水化も進んでおり、市民の皆様にお伝えするため協議会を作り協議をしていきたい。これからということもあり、誇らしくやっていることはこれくらいになる。

###### 【参加者】

間伐は、市の単独事業なのか。

###### 【林業振興課長】

補助の部分もあるが、補助の対象にならない部分は市が単独で行っている。

###### 【参加者】

西条の加茂川水系の間伐は、200ヘクタールやっているのか。

###### 【林業振興課長】

平成26年から700ヘクタールを目標に10か年計画でやっている。最初の4年間で加茂川水系、平成30年、31年で谷川水系、来年度からは中山川、大明神川水系で主要河川の兩岸約100メートルを間伐することによって下層植生を増やしたり土砂の流出を防いだりして水源かん養機能を高める。森林環境譲与税の使用目的の中に公的森林整備があり、経済林ではない山に交付金を入れて森林整備できるようになった。これまでの西条市の取り組みと同じようなことという意味では、森林環境譲与税に先駆けてそういった取り組みを進めている。

###### 【参加者】

市が今後間伐していく対象面積はどのくらいあるのか。

###### 【林業振興課長】

約700ヘクタールで、両側100メートルのうち、すでに手が入っているところはやらずに放置林になっているところを対象にしている。

**【参加者】**

700ヘクタールのうち、200ヘクタールが終わっているのか。

**【林業振興課長】**

そうである。

**【参加者】**

今は山にスギ、ヒノキを植林していて雑木の山が少なく水が山に溜められない。溜めるためには雑木の山が必要な中で、流域の山をもっと西条市の手でスギ、ヒノキと雑木の混合林にしていけば、効果があると思う。そういう方法や事業などを考えていただいたら水持ちのいい山ができるのではないかと。西条市がやったといえることがあればと思う。

**【市長】**

そのことについては、検討しており、もう少し待っていただきたい。誇らしくやっていることを言えるようにしたい。市民の水に対する思いを表現できれば、松山に限らず県民に対するメッセージにもなる。皆様の意見をいただきながらやっていきたい。

**【参加者】**

人口が減ってきて、山も空き家も管理ができなくなっており、空き家の近くで昔植えられたヒノキが大きくなり倒木の危険がある所が増えてきている。管理できないので、山や空き家を手放したいという話を聞くが、境界が分からないので売りようもなく、手放すのが難しい。それによって将来に引き継げない状態になっている。人口が減っていく中で、再生のためには一度、村じまいの準備をする必要があると思う。将来に引き渡すために境界がわからないとどうしようもない。状態を確認する作業に時間がかかると聞いているが、どうにか早くしてほしい。知っている人がいるうちに聞かないとわからなくなる。

**【参加者】**

西之川、東之川の境界については、大体知っている。先祖が元気な時に教えてもらっていないと木は毎年成長するので、木を切るときも初めはわかるが、15年、20年経つとわからなくなる。わからないときは、カメラで写真をとったり、木に傷を入れたり、石を置いたりしておくといよい。

境界は本当に大事なことである。わかっている所は、教えるのでいつでも聞いて欲しい。

空き家はたくさんあるので、皆さんが住んで畑でもしようと思うなら貸す。

**【市長】**

本当にありがたいお言葉をいただいた。

市長に就任して3年が経過し、災害が激甚化している中で、印をつけていても流されてわからなくなることにはあるが、再生のためにも境界は大切だと素人ながら感じた。今は、国土調査の未実施だった旧西条市の山間部で平成17年度より調査をスタートし平成29年度までに飯岡、下島山の一部から氷見まで進み、山の裾の部分に入り一回終えた。いよいよ昨年度から山の方に入っていこうと進めている。今年度は、荒川と鞍瀬の一部の調査を開始した。次年度からは千町、藤之石を行う。大保木側の谷の方は入れておらず、深く困難な道のりだが、徐々に進めている。

先ほども出たが、情報を確認しておくことも必要だ。マンパワーがないのは承知しているが、この調査とは別に、知っている方がご健在の時にしっかり話を聞いておく、記録しておくことが大切だと感じた。

**【農林水産部長】**

国土調査は、平地から上がってきており、国道194号沿い、県道西条久万線の沿線をこれから優先して整備をしていきたいと思う。今までは、平地に近いところから積み木のように上に向けて来ていたが、主要幹線道路沿いを上に登っていく。平地から奥山へ上がっていくのが基本的なスタイルで、途中を飛ばして奥山を調査するのは効率が悪いが、国と協議しながら令和2年度から国土調査事業十箇年計画を立てていく中で、国道・県道・主要道路の他に、今人が住んでいる、人口が多いところを組み入れて優先的にできるかは、今後要望があれば検討したい。

**【参加者】**

今は村じまいの時期だと感じており、人が住んでいるところの周囲から始めていくのが正解だと思う。

地球はどんどん小さくなっていて、先ほどの鈴鹿市の話では57か国の人が1つの市に住んでいるといよい、想像できない世界だが、それでもやっつけける能力が日本人にはあると思う。

大保木地域では、4、5人の外国人が来ただけでパニックになるのではという心配もあるが、ウェルカムの姿勢で、外からの人を受け入れられる地域づくりが課題だと思っている。外からの人も、住まう土地の名前を頭につけてどこそこの誰それと言えば、住民が納得しやすい。まず、人が住めるところから調査を進めていただきたい。

**【市長】**

十箇年計画の中で、194号線は緊急物資の輸送道路ということで最初にやらせていただくが、県道西条久万線も優先して調査を実施していく。確認して修正・見直していきたい。

**【農林水産部長】**

人が住んでいる所からというのは、市の考えとしては持っているが、国土調査は莫大な費用がかかるので、国から補助金をいただき進めたい。土砂災害警戒区域であるとか森林施業・保全区域であるなどといった方が、補助金が重点的につきやすい。真ん中を飛ばして奥山の人口が密集している土地を行うのであれば、そこの経済比較などを国の担当者と話をし、交渉をしながら可能であれば優先的にという思いはあるが、補助金なしで市の単独でやれと国に言われたら、その時には考えないといけない。

**【参加者】**

森林環境税が人口割で入ると思うが、そういうことに優先的に使っていただきたい。人が住めるところに重点して配慮いただきたく、これは政治の力に頼るしかない。

**【農林水産部長】**

森林環境譲与税を使った森林整備のための範囲を決めるとき、施業の範囲を特定するための境界を定めることができる。国土調査とはシステムが違うのでそのまま反映されるわけではないが、近い形で境界を定めることができると考えている。

**【参加者】**

水源の森事業だが、実際に施業した山林がどのようになっているか機会があれば行って欲しい。目指す姿と施業の効果に疑問を持っている。水源の森を目指すのであれば、放置林で枯れ木が多いところで3割間伐しても全く意味を果たしていない。方や状態がいい山林で3割だと切りすぎになる。状況に応じた施業ができるようにして欲しい。水持ちがいい山林にしようとする6割くらいという感覚で、そうすると切り過ぎだと怒られるが、水源の森の今の形を見直してもいいと思う。

移住の方と交流していると西条は自然の中で子どもを遊ばせる場所がないという話がでた。人が気軽に森に入れる場所が増えたらいいと思う。整備をされた山林が人の住んでいる近くに必要であるので集落周辺の山は急いでいただきたい。

**【市長】**

水源の森については、観光資源として使えるか見て欲しいと言われ、先般、丹原の保井野に3時間半歩いて夫婦滝を見に行った。私も素人なので、プロの目からも見てもらう必要がある。

**【農林水産部長】**

水源の森の整備事業後に見に行ったが暗いというイメージを受けた。今年度、愛媛大学の教授にお願いしてこの切り方でいいのかも含めて、森林の浸透能・照度、立木の形状比、土壌流出量の調査の4項目について調査をしている。何十年かしてもう一度3割切るのがいいのか、一度に5割切るのがいいのか、経済面も含めて検討する余地があり、内部協議の後、教授の意見や管理の所有者の意向を聞きながら、4割5割切るのもありだと考えている。

**【市長】**

本谷温泉の向こう側には、自然散策ではないが、自然共生型アウトドアパークのフォレストアドベンチャーがオープンする予定で、森の中で一日遊べるという環境ができる。また、東予地区にハッチョウトンボの生息地があり、そこは少し歩くことができ、遊具はないが立ち木もあり、自然散策できる。

西条市の約510km<sup>2</sup>の中に自然豊かな場所はたくさんあるので、もっと認知されるように情報発信していきたい。

人の住んでいるところの集落周辺の整備については持ち帰らせていただく。

**【参加者】**

西条市内の7割が山である中、山主の利益を考えながら政策を講じていく専門的な部署はないか。

**【農林水産部長】**

残念ながら市独自でトータルコーディネートをする専門部署はない。一番近いのは、林業振興課であると考えている。エンドユーザーも含めて森林が成り立つだけの循環型のシステムというような広域的プログラムなどはまだ作成していない。

**【参加者】**

国にもないのが現状なので難しいと思う。西条市が率先して作ったらどうか。

**【農林水産部長】**

第一次産業全てに言えることだが、担い手・後継者がいない。一番に考えるべきは、産業として成り立

つように、食べていけるようにすることである。そのためにはまず、スター農家やスター林業家、スター漁業者を作るのが一番で、頑張っている人を手厚く応援し成功していただき、それを見習って次の代に出てきてもらうというのが大きなビジョン。しかし、今は、どう取り組めばいいか手探りの状態。全ての産業で所得が上がり、生活ができるというシステムづくりができれば、都会のサラリーマンを辞めて西条に来たいという方も増えると思うがなかなかうまくはいかない。

**【参加者】**

50年育った丸太が二束三文という現状で、突破口を見つけるには、PRなどをするコーディネーター役が必要だと思う。農林水産の世界は大事な食の源なので市に頑張ってください。

**【市長】**

生業にならないといけませんが、第一次産業を補助金漬けにしたことがダメになった一つの理由かもしれない。しかし、新規就農者はここ7年くらいで約120人増えており、そこは補助がある。ある程度の補助はして、それから生業になっていくようにしたい。西条市では総務省の「地域おこし協力隊制度」を起業支援に特化した制度として活用し、「ローカルベンチャー誘致・育成事業」に取り組んでいるが、その先に生業ができるかどうか、市も支援をしながら見守っていききたい。言うが易し、実際にやるのは難しいのが今の現実で、ある程度、生計が成り立たないと、好きであっても木こりになろうとは思わないと思う。

**【参加者】**

山林の境界問題だが、私も父親が残した山が何か所かあるが全くわからない状態で、何をお願いしたらいいのか全く分からない。大保木地区からどんなことを発信すれば、皆に受け入れてもらえるのかを考えても何もでてこないが、大保木が好きなので、人の気配を感じられる山里にしたいと思っている。一人では何もできないので公民館を中心に皆で協力しながら地元を応援していこうと思う。

加茂川の水の問題でお願いしたい。加茂川の管理は県だが、これから大きな災害が予想される中、想定外という言葉をよく聞く。大水の影響で山崩れ、土砂崩れが頻繁に出てくると思う。その対策として加茂川の護岸をコンクリートで固めているので流速がかなり速くなっている。西之川地区で降った雨が中奥地区まで下りてくるのに30分もあれば来てしまう状況である。水の事故も予想されるのでコンクリートで護岸したらいいのではなく、山林を上手に生かして水の勢いを止めるといった山林の活用をしてはどうか。市の管轄外かもしれないが、現実問題で起こったら困るので、市も少し考えて欲しい。コンクリートで固める考え方は変えて欲しい。

**【参加者】**

私も父から譲り受けた山林があるが、明確な境界が分からない。人がいなくなるのが原因で、地元に住み続けてないと境界が全くわからなくなるが、すぐにはどうにもならない状況である。一次産業も生業にならないと受け継ぐ人がいないので何らかの手を打たないとこの先なくなるが、いたしかたない傾向である気がしている。

神戸地区に森林公園があるが最近、除草もしなくなり荒れている。この辺りを、皆が触れ合うことができる公園にすれば、地域の方が遊びに来られる。この地域の出口でもあるので検討して欲しい。

**【市長】**

円山森林公園だと思うが、アサヒビールが森林づくり活動の一環で下草刈りを行っており、市も協力をしている。あそこは、元々は営林署から西条市に譲っていただいた土地である。再利用の話について他からオファーがあり、例えば、森林組合が土場を埋め立てて木材の貯木場にするという計画がある。その活用については、色々なアイデアをいただきながらだが、公園ではなくなることも考えられる。

**【参加者】**

インターチェンジの近くの貯木場が円山森林公園に移動すると聞いたが、具体的に進んでいるのか。

**【農林水産部長】**

森林組合の貯木場と合わせて規模を縮小した県森連がくることで計画しており、今は事務的に条件が整うか調整中である。

**【参加者】**

森林組合の貯木場として利用しながら森林公園と一体化するのは可能か。

**【参加者】**

可能であると思う。

**【参加者】**

可能であるようなので、円山森林公園を子どもたちが遊べるような場所にして欲しいと働きかけたらどうか。

**【農林水産部長】**

今のところ貯木場は、元々谷だったところを埋め立てた真ん中くらいの場所であり、花畑ではない部分約2,6ヘクタールを予定しているので、今草が生えて周回道路がある場所ではない。

**【市長】**

共存ができればいいと思う。甘えているかもしれないが、森林組合の皆様にも地域の皆様にも、これからは行政だけではお守りができないので民間の活力で手助けして欲しい。また、守っていきこうという呼びかけをやっていく。

**【参加者】**

民でも官でもないコモンズという共有として持ち、皆でもって桜を植えようといった活動の中に市がいるようにするともっと面白いまちになると思う。

**【市長】**

理想的なことをいうと、市民の皆様のおいで山を守ろうということでクラウドファンディングや、ふるさと納税のような形で寄付をお願いしつつ、森林や公園を守ることに繋げていくことができれば今風のやり方だと思う。コモンズの話が出たが、里を離れた人も故郷のことを思っているという感覚になれば、共同で共有しながらという理想形になると思う。

**【参加者】**

私も小さい頃から加茂川は非常に親しみがあり、学校から帰ったら鞆を放り投げてすぐに川に行って遊ぶというような状態の川だった。昔と比べて水量がぐんと減った。水量が減った原因は、山の荒廃が進み、土砂が流入して川底が上がってきたため、それに伴って台風のような大水がきたら一気に流れてしまう。そうすると土砂が流れてきて底が浅くなるという悪循環を繰り返して今に至っている。先ほどから皆さんが言うように、保水ができる山の整備を早急にしないと年々川底が浅くなってしまいますので、そのこともふまえて整備をしていただきたい。

**【参加者】**

兎之山の集落の中の西条久万線で、バス停を中心に西之川側へ100~200mのところの河川側が崩壊する恐れがあり、何かあれば孤立集落になるので迂回路として兎之山東部線の整備をお願いしたい。発電所の近くの道の幅員を消防車や救急車が通れるようにと以前お願いしたがまた再度お願いする。

**【参加者】**

前市長にも話したが、大保木の公民館があまりにもみすぼらしく、少し経費を割いていただきたい。交流会で様々な場所に行くが、エレベーターがある公民館もある。備品一つにしてもよそのお古である。新築をしてくれとは言わないので、補修できるところはして欲しいとお願いしたが、耐震工事の対象でないのではほとんど経費を割くことができないという回答であった。それはおかしいのではないかとと思う。

来年は、大保木会の30周年の記念事業がある。例年だと、130~140名の方の参加があるが、来年は少し増えるのではないかとと思う。そうすると、公民館の講堂に入るかどうかを考えないといけない。フロアの中は、毎年清掃業者が入っているのきれいだ、窓が動かないところもたくさんあり、事務室や研修室、調理室も非衛生的なところがある。今現在で、解消できることがあれば教えていただきたい。

**【市長】**

今、順番で耐震化を進めている。加茂公民館は雨漏りしており、塗装をして雨漏りを防ぐ工事をするか、小さくてもいいから立て替えたらかどうかと提案したが、あの建物がいいと言われた。浦山の学校や公民館の風景を残してほしいということであれば、残していく方向で対応していく。補修が必要なところをいつまでも放置しておくわけにはいかない、困っているのであれば言っていただきたいが、全部が新築にはならない。新しい施設であっても、古い備品で使えるものがあつたらそれを使うようにしている。財政状況が厳しいので、工夫しながらになるが、問題があれば対応しないといけないので、社会教育課にもつないでいく。

**【参加者】**

こういった地域の現状の中、10年、20年先に大保木公民館をどれだけの方が利用してくれるかを考えたとき、厳しい財政状況なのはわかるが、他の公民館が整備されると聞くと大保木だけ取り残されているような気がする。

**【市長】**

加茂は耐震化工事と雨漏りしないような塗装をする。大保木のことを忘れることはない。

山間部のこれからのコミュニティをどう守っていくのかということ公民館が核にならないといけない。公民館は皆様のお心のよりどころ思っており、大切にしていきたい。100点ではないかもしれないが合格点

をもらえるようにしていきたい。

## 6 まとめ・閉会

### 【市長】

お付き合いいただき感謝申し上げます。皆様の思いについては承知した。元市長の伊藤宏太郎氏が言った「街が栄える、丘が栄えるためには、山が大切だ」ということをもう一度思い知らされた。財源があれば、思い切って「あれもこれも」できるが、「あれかこれか」の中で確実に着実に進めていきたい。一挙にいかない部分もお許しをいただきながら山の管理に手を入れていきたい。全てに目が届いているわけではないので、こうしたタウンミーティングが大切だと思っている。来年度も必ず行うので、今日の話の皆様でフィードバックをしながらよりよい西条、よりよい大保木にしていきたい。行政はスピードが速くないと皆様じれったく思うだろうが、決して大保木のことを忘れることはない。

目指すは西条市が一つになることであるので、行政を見捨てないで欲しい。行政もみなさんを見捨てることは決してないので、協働のまちづくりと一緒に進めていただくようよろしくお願い申し上げます。

### 【大保木地区連合自治会長】

お忙しい中、出てきていただき感謝申し上げます。これからの山のありようについて、気の遠くなるような目標ではあるが、山が単独、水が単独、人が単独ではなく共にある共有していくというのがこれからのありようだと思う。皆さんの問題と私の問題で違うところもある。しかし、一つのテーブルの上に乗せることで解決できることもある。そういう大保木であり続けていきたい。

最後に一つお願いしたいが、公民館は休日には宿直を雇い365日開いている。願わくは、宿直はいらないのでその費用で、自治会の意見を聞き取り行政との連携役となる人を、公民館へ週二日程度来てもらうような施策を取ってほしい。以上で挨拶とさせていただきます。

本日は感謝申し上げます。

(閉会)

### <タウンミーティングの様子>

